

# プロにすべてお任せの「投資信託」



🐾 投資信託はプロにお任せの投資なので、投資初心者にも最適  
🐾 100円からでも始められる

「資産運用」と聞くと、まとまった資金が必要という印象をお持ちの方も多いと思います。たしかに、インターネットを使った資産運用がまだあまり一般的ではなかった十数年前までは、初期投資額としてある程度まとまった資金を用意する必要がありました。

ところが、インターネットとスマートフォンの普及により、近年このハードルがぐっと下がり、今やネット証券を使えば、**100円から資産運用を始められるようになりました。**まさに、この「ワンコイン投資」を実現できるのが、「投資信託」です。

**投資信託とは、運用をプロにまるっとお任せできる金融商品です。**

具体的には、ファンドマネジャーと呼ばれる運用のプロが、あらかじめ掲げた投資方針にのっとり、投資家から集めた資金を株式、債券、不動産などに分散投資し、その成果を最終的に投資家に還元するというしくみです。「投信」「ファンド」と呼ばれることもあります。

100円という少額から世界中のさまざまな資産に投資できるのは、このように、たくさんの投資家の資金をまとめて運用しているからです。

個人では直接投資することが難しい地域も、投資信託なら、ファンドマネジャーが投資家に代わって有望な投資先を見つけ、実際の運用をおこなってくれます。

私たち投資家というと、**投資信託の購入後は基本的に「ほったらかし」**にして**いて問題ありません。**毎日株式や為替の動向を確認する必要はありませんし、私たちが寝ている間に海外で何か大きな出来事があった場合でも、ファンドマネジャーが対処してくれるので、過度な心配は不要です。

Q

ふるさと納税って  
やっぱりやったほうがいいの？



A

制度の見直しによって以前ほどの「オトク感」は得られなくなりま  
す。「寄付」という制度の原点に立ち返り、余裕資金があれば検討し  
てもいいでしょう。

まずは、お金を貯めて増やすためのしくみづくりを優先して。

ふるさと納税をやっても、お金は貯まりません！

近年急速に人気が高まった「ふるさと納税」。

テレビや雑誌でもしばしば特集され、お金を節約するための方法として紹介  
されることも増えました。しかし、「オトク」というフレーズだけが独り歩きし  
ていて、制度自体をきちんと理解している人は、実はあまり多くないかもしれ

ませんね。

まず、**けっして間違っ**てはいけけないのは、**ふるさと納税という制度自体は、**  
**個人の資産形成を後押しする目的でつくられたものではない**ということ。iD  
eCoやNISAと同列に考えてはいけません。

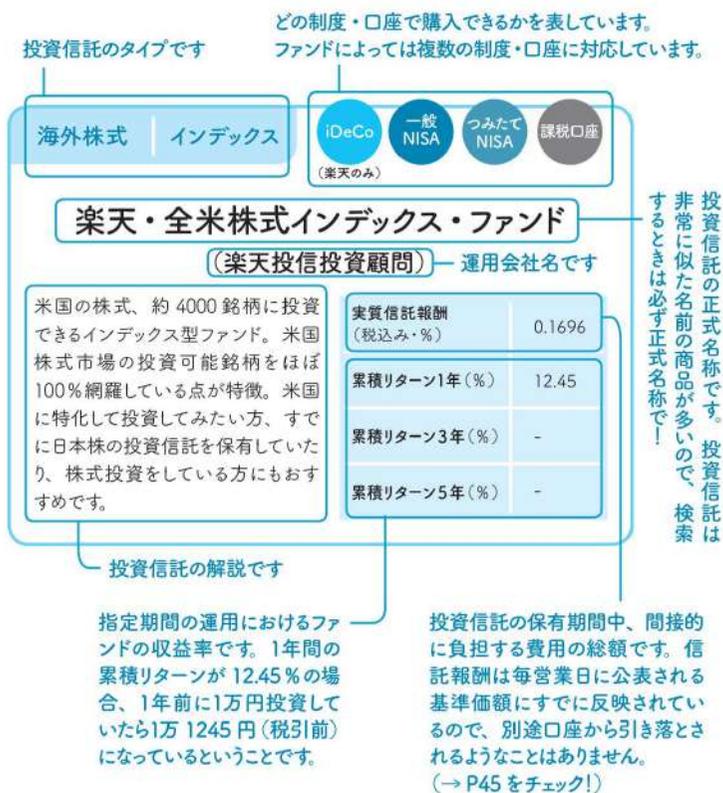
ふるさと納税は、都道府県・市区町村への「寄付」の制度です。

本来ならば、現在住んでいる自治体に支払う住民税を、「寄付金制度の特例」  
という形で、自分が選んだ自治体に実質的に支払うことができるというもので、  
2008年度から始まりました。

もともとは、「生まれ育ったふるさとに貢献する」ことを目的としていました  
が、実際には、生まれ故郷でなくても、好きな自治体を選んで寄付ができます。

人気が急騰した背景には、寄付のお礼として、各自治体が寄付金額に応じて  
提供する「返礼品」の種類が増えたことと、寄付金控除という2つのポイント  
があります。

● 投資信託紹介ページの見方



※1 iDeCo、一般NISA / つみたてNISA は、楽天証券とSBI証券の取扱い銘柄を前提としています。  
 ※2 データはすべて2019年3月末時点。楽天証券経済研究所作成。

# おすすめ投資信託12選

それではいよいよ、iDeCo、NISA、つみたてNISAの各制度と相性のよい投資信託をご紹介します。

iDeCo (または企業型確定拠出年金) や、つみたてNISAのように、制度のしくみや、選択できるファンドに制約がある場合は、「迷ったらインデックスファンド」で問題ありません。

一方、課税口座における積立投資や、一般NISAの場合は、優良なアクティブファンドを取り入れることで、運用資産全体の収益性向上が図れます。もちろん、両者を組み合わせても問題ありません。

ここでは、インデックス型とアクティブ型の特徴を踏まえ、コスト効率のよいインデックス型と、独自の運用哲学に則って優良な成績を収めているアクティブ型、さらには、1本で完結するバランス型も選定しました。

# 目的&年代別モデルポートフォリオ

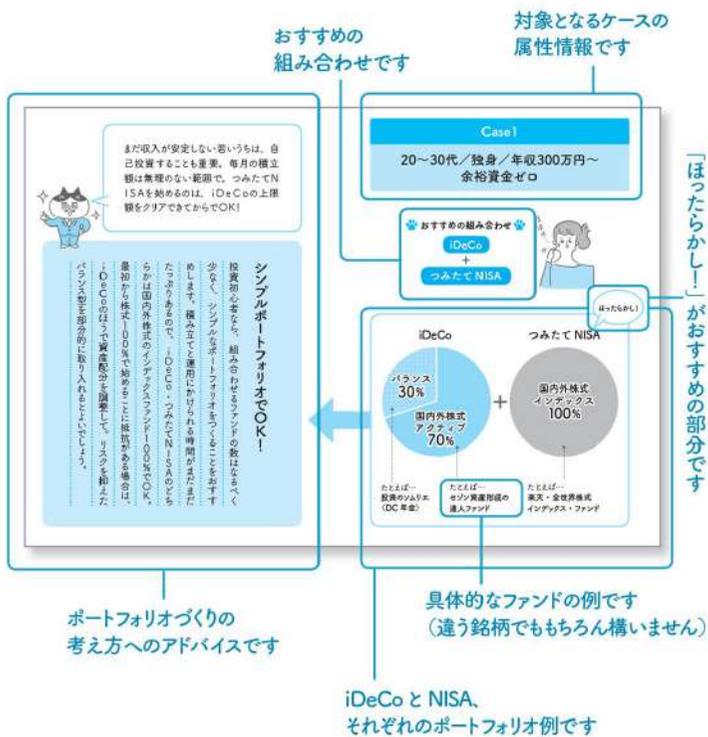
ここからは、年代別に、各制度と投資信託の組み合わせ方を「モデルポートフォリオ」としてご紹介していきます。

ご紹介しているのはあくまで一例ではありますが、皆さんが現在置かれている状況や、資産形成の目的などと照らし合わせて、ぜひ参考にしてみてください。

なお、各ポートフォリオの投資信託は、144〜149ページで紹介している銘柄にこだわる必要はありません。

とくにインデックス型は、同じ指数（インデックス）に連動するものが複数存在します。企業型確定拠出年金に加入している場合など、金融機関を自由に選ぶことが難しい場合は、144〜149ページのインデックス型と同じ指数に連動するファンドを探してみてください。

## ○ モデルポートフォリオの見方



# iDeCo & NISA 口座開設手続き集

本書1冊で iDeCo & NISA を始められるように、口座開設の手続き集をご用意しました。

申し込みの流れや書類の記入見本から、申込書類の「不備あるある」まで網羅しています。これに沿って申し込みをすれば、一発で口座開設完了、間違いなし！

※ 2019年4月時点

## iDeCo編

申し込みの流れ .....	2
準備するもの .....	4
申込書(会社用)見本 .....	5
申込書(自分用)見本 .....	6
iDeCoの申し込み、 ここに注意! .....	8
掛金の配分を指定する .....	10
保有商品の見直し方法 .....	11

## NISA編

申し込みのポイント .....	12
申し込みの流れ .....	13
金融機関変更 .....	17
一般NISA⇔つみたてNISAの 区分変更 .....	18

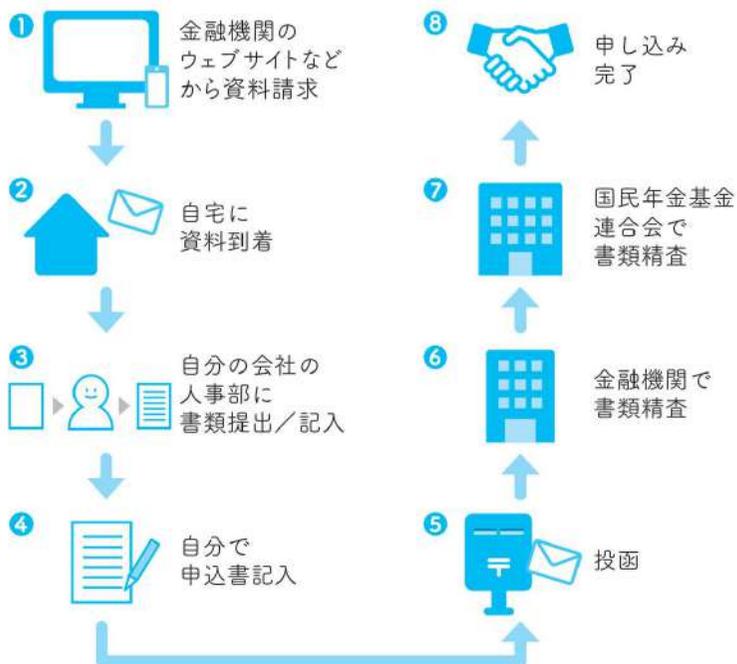


※ iDeCo 編では、申込書類は楽天証券のものを参考に解説していますが、どの金融機関の申込書類も、基本的に内容は同じです。



まずは全体の流れを確認や！ iDeCo の場合、郵送での書類のやりとりがあるので、すべて完了するまでに1~2カ月ほどかかると覚えておいてな

## 🐾 申し込みの流れ (会社員の場合)



## 1 金融機関のウェブサイトなどから資料請求

金融機関のウェブサイトやコールセンター、窓口から、申込書類を取り寄せます。どの金融機関にするか決めるポイントは、本編 P88 を確認してください。



## 2 自宅に資料到着

資料の中には、会社に記入してもらう「事業所登録申請書 兼 第2号加入者に係る事業主の証明書」と自分で記入する「個人型年金加入申出書」の2種類が必ず入っています。



## 3 自分の会社の人事部に書類提出/記入 ▶ 巻末ふろく P5 をチェック

まずは会社の人事部に「事業所登録申請書 兼 第2号加入者に係る事業主の証明書」を提出し、記入してもらいましょう。場合によっては、iDeCo への加入資格がないことがあるからです。



## 4 自分で申込書記入 ▶ 巻末ふろく P6 をチェック

「個人型年金加入申出書」に記入します。「基礎年金番号」の記入欄があるので、年金手帳で確認しましょう。毎月の掛金もここで決めて記入します。



## 5 投函

3,4 で記入した申込書類のほか、金融機関によっては本人確認書類（運転免許証や健康保険証のコピーなど）を添えて、投函します。不備があると差し戻されるので、巻末ふろく P8 を参考に最終チェックもお忘れなく。



## 6 金融機関で書類精査



## 7 国民年金基金連合会で書類精査



## 8 申し込み完了

金融機関から「口座開設のお知らせ」「コールセンター/インターネットパスワードの設定のお知らせ」が届いたら、申し込み完了です！金融機関のウェブサイトで、口座の初期設定などに進みましょう。